



アイヌ語で「広場」の意味
 文 北原 次郎太 絵 小笠原 小夜

「ヘカチ マッネカチ」は「男の子の女の子」の意味です。若いアイヌの人にインタビューするコーナーです。

家で何をして過ごしますか。テレビを少し見て、宿題したり、ピアノが楽しいです。

勉強以外だと、部活のパーカーが楽しいです。

学校でも音楽の授業が一番好きです。

得意と言えは得意です。

楽器はトランペット、得意と言えは得意です。

クラシックではショパンが好きです。

歌も上手です。

曲が好きです。

とても落ちていましたね。だれの曲が好きですか。

クラシックではショパンが好きです。

歌も上手です。

楽器はトランペット、得意と言えは得意です。

得意と言えは得意です。

学校でも音楽の授業が一番好きです。

勉強以外だと、部活のパーカーが楽しいです。

家で何をして過ごしますか。テレビを少し見て、宿題したり、ピアノが楽しいです。

失くした物語 ショロップ

ナイフ一本で見事な木ぼり

シタエパレは江戸時代の終わりに近いころ、択捉島のナイホに暮らしていた男の人で、見事な木ぼりを作りました。松浦武四郎という和人の紀行家がこのことを書き残し、今でもシタエパレの作品には大勢のファンがいます。

得意としたのは、お盆やおわん、さじ、ひしゃくなど。これらに一本のマキリ(ナイフ)だけできれいな模様をほりました。植物の葉やつる、花など、海の波模様、うろこ模様を組み合わせたデザインがよく見られます。模様だけでなく、一つ一つの道具の形が繊細で使いやすく仕上げられ、美しいのです。

江戸時代には、アイヌ民族の木ぼりが本州へも広まってきました。北海道に来た和人がお土産に買うほか、江戸でも熱心に買い集めるファンのために、茶たぐ(茶碗の台)やハンガー、糸巻きなどがよく作られました。シタエパレも注文があれば、筆立てや筆のじく、マキリのさやなどを作りました。「禪鎮」(座禅をするとき頭に乗せたり、耳にかける道具)なども残されています。

当時の択捉島のへらには、平和とは言えませんでした。高田屋という商人が木綿や米を運んでくると、アイヌ民族もそれらを喜んで取り入れました。ところが、のちに別の商人が来て、人々を強制的に働かせ、いろいろなことをするようにしました。

「言いつことを聞かないと暴力をふるい、食べ物をおたえず、虐待しました。過酷な生活で病人が増え、2千人いた択捉島のアイヌ民族は、数十年の間に430人まで減ってしまいました。そんな中、シタエパレは、ほこりを守るため、和人からはなれた所に住み、和人のものを受け取らず、言いつことも聞きませんでした。とぎやき魚をとるほかは、一心にぼり物にうちこんでいました。その勇敢さに和人である武四郎も感銘を受けたのです。」

(敬称略)

名工 シタエパレ (江戸末期ごろ)



マキリ(ナイフ)
 シタエパレのつくるマキリのさやとつかは、とても美しい。さやに動物の骨や角をはめこんだものもある

お盆
 シタエパレ作品には、花や葉の模様がよく使われる。縁の模様も美しい

ウルップ島
 択捉島、ウルップ島
 択捉島から南は、道東のアイヌ民族もよく来ていた。ウルップ島から北の人々を北千島アイヌと呼ぶこともある

ナイホ
 美しく静かなところ。シタエパレは「私の親の代には米も木綿も必要なかった」と言い、米を食べず、木綿の服も着ずにくらし

弁論大会に3回出場

ノの練習をしたり。

「アイヌ語はだれが教えてくれますか。日高管内様似町の大野先生という人が阿寒に教えに来てくれます。弁論大会に3回出ました。アイヌ語の勉強は楽しいです。毎年冬になんか、おてりを教わります。将来はどんなことをしたいですか。

「二つあって、二つはピアノが音楽の仕事。もう一つは英語の先生です。」

「読者のみなさんにメッセージを。阿寒湖に来て、アイヌのことを知ってほしいです。」

「ヘカチ マッネカチ」は「男の子の女の子」の意味です。若いアイヌの人にインタビューするコーナーです。

平良 咲季さん(小6)
 釧路市阿寒町

読んでみよう

今回は小さな「プ」「ク」の読み方です。これらはそれぞれ子音で終わる音を表します。プは子音のp、クはkです。子音については、前回(4月22日)のこのコーナーで説明しました。

「チェパ(魚)」の発音は、ゆっくり「チェッパ」というつもりで、プを言う前に、くちびるをとじたところで止めます。

「ユク(動物のシカ)」は、「ゆっくり」とを、ゆっくり言いながら「く」を言う直前に止めます。この時、舌の先はどこにもつかず、舌の付け根が息の通り道をふさいでいます。同じく子音で終わる音に、小さい「ツ」があります。日本語にもある文字ですが、例えばサッカーというときの「ツ」はk、「カップ」というときはpの音が出ています。アイヌ語で言葉の終わりに「ツ」と書くときは、子音のtを表します。

「ベツ」は「ベッ」とゆっくり言いながら、「ト」を言う直前で止めます。舌先が前歯の裏側から歯ぐきのあたりに付いて、息の通り道をふさぐ感じがします。

「読んでみよう」の内容を、どうしん電子版の動画コーナーを見ながら練習してみましょう。出演は札幌大学「ウレシパクラブ」のメンバーと、札幌・真駒内桜山小学校4年の河村龍平君です。スマートフォンを持っている人は、QRコードから読みこんでください。



シタエパレがくらしした時代は、日本とロシアの国境がはっきり決まっていませんでした。択捉島は今でいう「北方領土」にあたる島で、千島列島(知床とカムチャツカ半島の間にあるたくさんの島)の南のはしに近いところでした。

択捉島までは、厚岸や根室など道東のアイヌ民族が獵に出かけました。ウルップ島より北のアイヌ民族は、島から島へ移動をしながら魚や海の動物をとり、カムチャツカのイテリメン民族などと交流してくらしていました。

江戸時代の中ごろになると、ロシア人と和人がこれらの島々にやってきました。ロ

シア人はアイヌ民族にロシア語の名前をつけロシア正教(キリスト教の一派)を信じさせようとしています。和人も対抗し、アイヌ民族に日本語名をつけさせました。ですから、人によってはアイヌ語、ロシア語、日本語と三つの名前を持つことになりました。

明治時代になると、日本が千島列島を、ロシアが樺太(サハリン)を領土とし、アイヌの世界は国境で区切られました。千島列島のアイヌ民族は色丹島に集められ、第2次大戦後は、ほとんどの人が北海道や本州へ移りました。今でも、先祖が千島列島にくらしていたというアイヌ民族が各地にくらしています。

三つの名前を持つ人も